

旧約聖書の律法

「それから神はこれらのことばを、ことごとく告げて仰せられた。『わたしは、あなたをエジプトの国、奴隷の家から連れ出した、あなたの神、【主】である。』(出エジプト記20:1-2)

イスラエル人がシナイ山で体験した最も重要なことは神の律法が与えられたことだった。その律法は指導者モーセを通して与えられたので、「モーセの律法」と呼ばれることもある。ヘブル語では「トーラー」と呼ばれるけれどもそれは「教え」を意味している。律法には次の三つの分野がある。(a) 道徳律—人々が聖く道徳的に正しく清い生活をするために神が定めた規定(出20:1-17)。(b) 民法—民族としてのイスラエルの法律的、社会的生活を扱っている(出21:1-23:33)。(c) 儀式法—主に對するイスラエルの礼拝の形式と儀式を取扱っている。この部分には種々のいけにえに関する規則が含まれている(出24:12-31:18)。この律法の主な目的と機能は以下の通りである。

(1) 律法は神がご自分の民と結んだ契約(神の律法と約束、そして神に対する人々の忠誠に基づく「終生協定」)の一部分である。そこには人々が忠誠心をもって守るように神が期待しておられる要件や条件が描かれている。イスラエル人はこの契約の義務と責任を正式に受入れた(出24:1-8, →「イスラエル人との神の契約」の項 p.351)。

(2) イスラエルは奴隷の状態から奇蹟的に救い出してくださった神のあわれみを土台にして律法を受入れた(出19:4)。神の命令に従って過越の子羊の血を塗ってエジプトから救われた(出20:2)人々が律法を受入れたのは、そのあとのことだった。そして旅行中の必要を神がやさしく供給しておられる間は律法を受入れていた(出19:4)。

(3) 律法は神とほかの人々に対して神の民がどのように行動をしたらよいのかを啓示している(出19:4-6, 20:1-17, 21:1-24:8)。また犯した罪を償う(ものごとを是正するために必要なこと)ために必要な血のいけにえについて規定していた(レビ1:5, 16:33)。けれども律法は人々を救うため、あるいは神との関係を保証するために作られたものではなかった。神の規則を守っても神への反抗や反逆の埋合せにはならなかった。なぜなら反抗は心の態度が行動に表れたものだからである。さらに旧約聖書の律法は、神が既に関係を築いた人々に与えられたものだった(出20:2)。むしろ律法は神とほかの人々との関係の中でどのように生きることを神が望んでおられるかを教えていた。神はイスラエル人が神の助けを受けながら律法に従い、神との信仰による関係を楽しめるようになることを期待しておられた(申28:1-2, 30:15-20)。

(4) 旧約聖書でも新約聖書でも神の命令を守ることは、神に頼りみことばをそのまま受取り(創15:6)、神を愛すること(申6:5)を意味している。この点でイスラエルはしばしば失敗した。なぜなら信仰と愛、神を知り神を喜ばせようという思いをもって律法を守らなかったからである。新約聖書でパウロは、イスラエルは「信仰によって追い求めることをしない」(ロマ9:32)ので、律法が目指した義に到達することがなかったと言っている。

(5) 律法が強調しているのは、愛の心から神に従うことが(→創2:9注, 申6:5注)、主からの祝福に満ちた充実した生活を生み出すという永遠の真理だった(⇒創2:16注, 申4:1, 40, 5:33, 8:1, 詩119:45, ロマ8:13, 1コネ1:7)。

(6) 律法は愛、慈愛、正義、悪に対する嫌悪などの神のご性格を表している。イスラエル人は神のかたちに創造されたので、神の道徳律を守るように期待された(レビ19:2)。それは神に応答する能力を持ち、神との個人的関係を持ち、その愛とご性格を反映できるからである。

(7) 旧約聖書の救いは命令をことごとく完全に守ることを条件としたものではなかった。そこでイスラエルと神との関係の中にいけにえの制度が加えられたのである。それによって、律法を破ったけれども真心

から悔い改めて、神があわれみをかけてくださることに頼る人々に罪が赦される道が提供された。

(8) 旧約聖書の律法と契約はそれ自体完全ではなかったし、永久に続くものとされていなかった。律法はキリストが来られるまで、神の民を一時的に導き守るものだった(ガラ3:22-26)。古い契約は今や新しい契約によって達成されたのである。この新しい「協定」によって神はご自分の救いの計画を完全に明らかにされた。それは罪による最終的破滅から人々を救い出し神との個人的関係に回復することで、イエス・キリストを通して実現した(ロマ3:24-26, →ガラ3:19注)。このことは律法の中の道徳的原則は今日の私たちにはもはや必要ではないとか重要ではないという意味ではない。道徳的純粋さと真理に関する神の標準は今日も有効である。けれども神の御霊がこの標準に従って生活するのを助けてくださる。御霊の助けがなければ、私たちはそのように生活することができないからである。新しい契約の中で、神は律法を人々の思いと心の中に置いてくださると約束された(ヘブ8:7-12, 10:16)。主イエスは「わたしが来たのは律法や預言者を廃棄するため・・・ではなく、成就するため・・・です」(マタ5:17)と言われた。

(9) 神は律法を「違反を示すために」(ガラ3:19)与えられた。それは私たちが境界線を越えて神の命令に背いたからである。そのために律法は、(a) 行動を規定する(見張る、または管理する)ため、(b) 罪とは何かを定義するため、(c) 神のご計画を破ろうとする人間の傾向と神の完全な標準に到達することが不可能なことを明らかにするため(→ロマ3:20)、(d) 神のあわれみと恵みが必要であることを教えるため(→ロマ5:20)に計画されたものだった。こうして人々は罪の結果から救い出され、神との関係を築くためには神の助けが必要であることを認識するようになった(→ロマ8:2)。